

警鐘レポート6 鏡視下手術におけるエネルギーデバイスによる熱損傷に関連した死亡

事例2

< 事例概要 >

- ・ 直腸脱で腹腔鏡下直腸固定術を施行。超音波凝固切開装置を使用。開腹手術歴あり。
- ・ 術中、S状結腸と小腸に高度な癒着があり、剥離に時間を要した。術後1日、39°C台の発熱、SpO₂ 80%前半で酸素開始。術後2日、腹痛、腹部膨満感を認めた。術後4日、創部から便汁が流出し、緊急開腹。小腸に穿孔を認め、部分切除術を施行したが、初回手術から4日後死亡。
- ・ 死因：汎発性腹膜炎。解剖無、死亡時画像診断（Ai）無。